

Hello! FUJISEI

No. 197

自覚症状がない糖尿病

いったん罹ると一生涯 付き合っていく必要も

最近、「糖尿病の教育入院」という言葉をよく目にするようになりました。

糖尿病は、血糖値を下げるインスリンを分泌できない「1型」を除くと、ほとんどが食事や運動などの生活習慣の乱れによる「2型」で、わが国の糖尿病の95%以上はこのタイプです。

糖尿病は、食生活の欧米化や交通手段の普及による運動不足などによって年々増加傾向にあります。ほとんどの場合、自覚症状がありませんが、放置すると、秘かに静かに全身のさまざまな器官を蝕んでいくと

いう恐ろしい病気です。痛みなどの自覚症状がないにもかかわらず、厳しい食事管理や運動を強いられるため、治療を怠りがちになります。しかし、放置すると合併症が進行し、失明、人工透析、足壊疽といった結果になりかねません。また、風邪などのように数日間、薬を飲めば治るというわけでもありません。

つまり、いったん罹ると、一生涯付き合っていかなければならない病気と言えます。

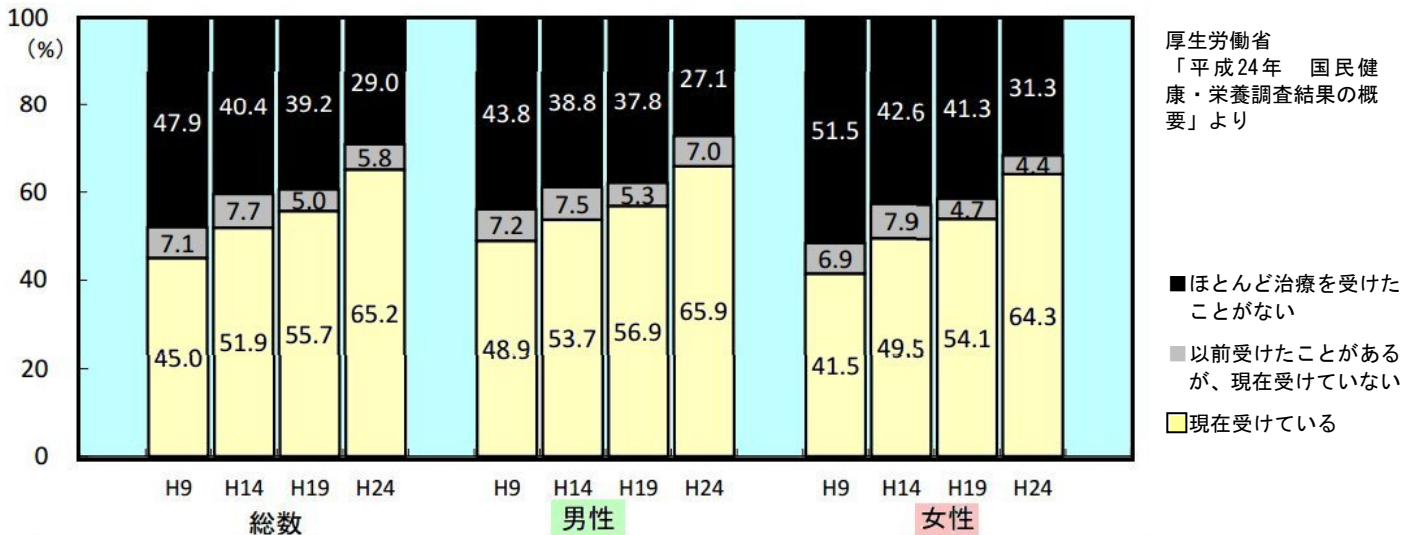
教育入院とは、“重症だから入院”ではなく、患者や家族が糖尿病を正しく理解することを目的に実施されているもので、医師や医療スタッフ

(糖尿病療育指導士、管理栄養士、薬剤師、看護師)が患者をサポートします。

厚生労働省の「平成24年 国民健康・栄養調査」によると、糖尿病が強く疑われる人(糖尿病有病者)は約950万人、糖尿病の可能性が否定できない人(糖尿病予備群)約111万人を合わせると約2,050万人もいます。平成19年の約2,210万人から初めて減少に転じたといっても、この数にはびっくりします。

糖尿病が強く疑われる者のうち、現在治療を受けている者の割合は、男性65.9%、女性64.3%で、男女とも毎回増加しています。

「糖尿病が強く疑われる者」における治療の状況 (20歳以上、性別)



※「ほとんど治療を受けたことがない」は、「医師から糖尿病と言われたことがない」者を含む。
 ※平成24年における「現在受けている」者は、「過去から現在にかけて継続的に受けている」者(総数63.1%、男性63.6%、女性62.4%)と「過去に中断したことがあるが、現在は受けている」者(総数2.1%、男性2.3%、女性1.9%)を合計した値。
 ※平成24年のみ全国補正值。